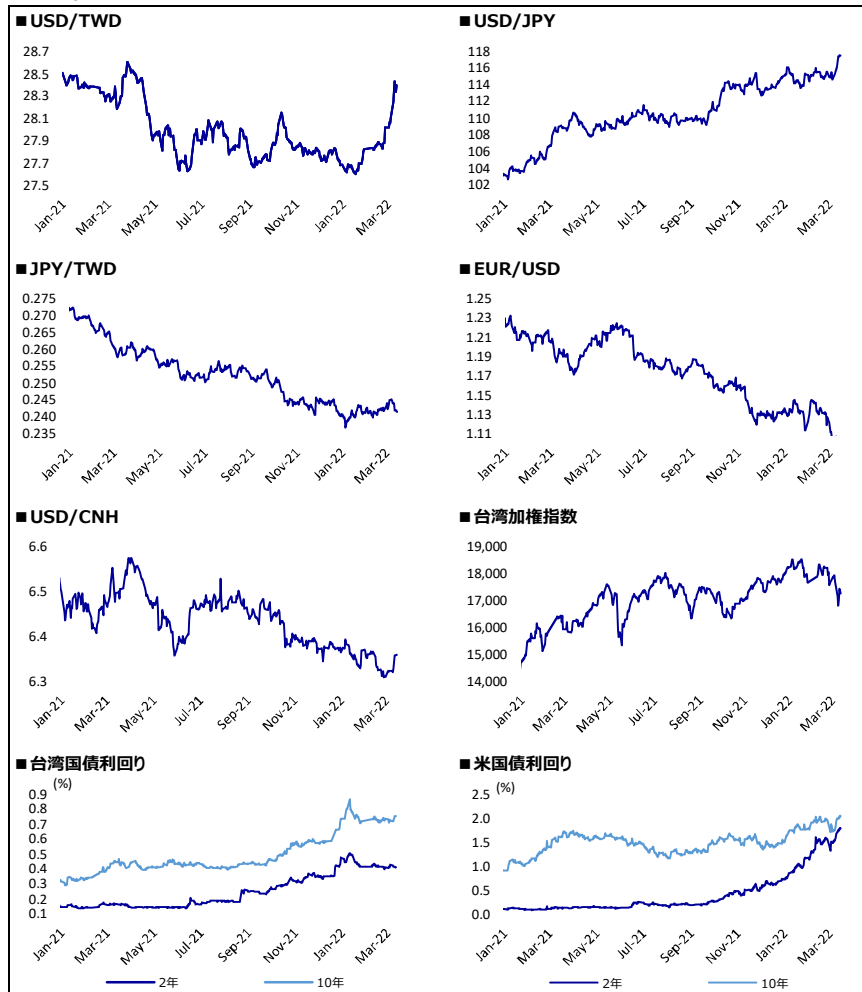


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルもウクライナ情勢への警戒感からリスク回避の動きから台湾ドル売りが継続。週初3/7は28.160でオープン後、前週末にウクライナ情勢が悪化したことや原油価格が急上昇したことから、リスクオフの流れが強まり、台湾株の大幅下落とともに外国人投資家の台湾ドル売り圧力が強まり、28.30手前まで上昇。3/8も流れは変わらず、28.38付近まで上昇。3/9は台湾株が反発し、台湾ドル安が一旦落ち着く場面もみられたが、外国人投資家は台湾株売りを継続しており、ドル台湾ドルは一時28.456まで上昇。3/10はOPECの原油増産期待が高まり、原油価格が大幅下落したことを受け台湾株が反発。外国人投資家の台湾ドル売りも落ち着いたことから、ドル台湾ドルは28.32付近まで下落。3/11は再度台湾株が下落し、外国人投資家が株を売り越したため、ドル台湾ドルは上昇。最終的に先週比1.0%ドル高台湾ドル安の28.403で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は1,809.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初3/7は114.85でオープン後、ウクライナ情勢への警戒感が高まる中、ドルと円はともに安全資産として買い需要が強く、ドル円は115円を挟んでレンジで推移。しかし、ロシアとウクライナの3回目の協議で大きな進展がないとの見方が広まると、ドル円は115円台前半まで上昇。3/8は新しい材料もなかったが、リスクオフで低下していた米金利が巻き戻して上昇するとドル円は115円台後半まで上昇。3/9は115円台半ばで推移していたが、UAEがOPECプラスに原油増産を呼びかけているとの報道からOPECの増産期待が高まり、原油価格が大幅下落。これを受けて、米金利、株式市場が反発するとドル円も上昇し、3/10には116円台前半まで上昇。しかし、その後は押し戻され115円台後半で推移。ECBでは資産購入プログラムの減額を発表したが、理事会後にラガルド総裁が会見でGDP予想を下方修正とウクライナ情勢による景気への懸念も示したためユーロが一転して売られた。また、米2月CPIが前回より上昇し40年ぶりの水準となったことを受け米金利が上昇したことから、ドル円は上昇し、116円台前半に戻した。3/11は前日の流れを引き継ぎ、年初来高値をつけるストップロスを巻き込みながら上昇すると117円台に寄せ、翌週に控えたFOMCが意識され米金利が上昇したこともあり、117.35まで上昇。最終的に先週比2.3%ドル高円安の117.30で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：28.300-28.700
ウクライナ情勢については不透明感が強く、引き続き外国人投資家のリスクオフの動きから台湾ドル売りに警戒したい。またFOMCを控える中、米金利も上昇しており、こちらも注意したい。なお、台湾も金融政策決定会合を控えているが、据え置きを見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：116.50-119.00
今週はFOMC、BOE、BOJと金融政策の発表が相次いで予定されている。FOMCでは25bpの利上げがコンセンサスではあるが、今後の利上げペースに注目が集まっており、タカ派な内容になればドル高の流れが加速するであろう。

今週の予定

3/14 (MON)	
3/15 (TUE)	米2月PPI、米3月NY製造業業況指数
3/16 (WED)	米2月小売売上高、FOMC
3/17 (THU)	台湾金融政策決定会合、米2月住宅着工・許可件数、BOE金融政策決定会合
3/18 (FRI)	日銀金融政策決定会合

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。